

## 「台風をつくる(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

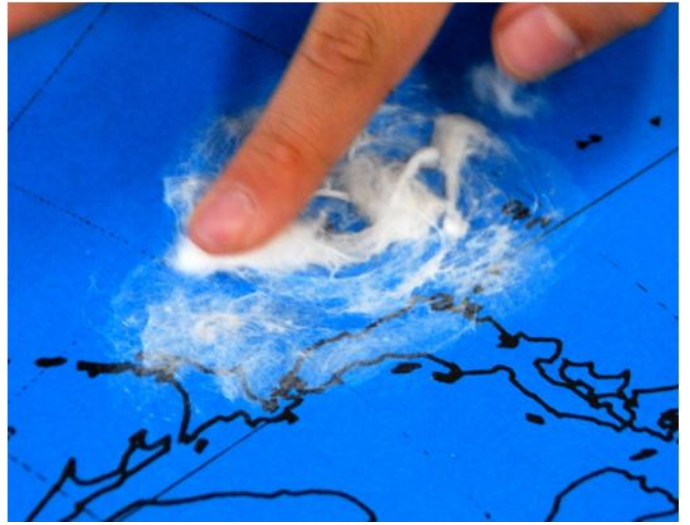
空き箱と脱脂綿を使った「雲の模型づくり」は、自由研究の一例として、教科書にも載っている。しかし「台風の模型づくり」は見たことがなく、子どもたちにとっても、はじめての経験だろう。研究の目的と、一通りの作業説明をしたあとは、あーだこーだ言いながら、夢中になって取り組んでいた。その様子を見てみよう。



今回は、「今日の気象衛星画像」から、「2日後の台風の位置と形を予想して模型を作る」という研究課題である。まずは、自分で予想した中心位置に、×をつける。その後は、中心の「目」から作り始める子どもが多かった。



糊は、いろいろ試してみたが、細いスティック糊が一番使いやすい。綿に糊をつけて貼る・・・というよりは、台紙(地図)のほうに糊をつけてから貼ったほうが、作業は楽に進む。



台風はすべて北半球で発生するので、雲の動き(地上付近の風)は「反時計回り」である。しかし、渦の形(雲の腕)は「時計回り」に見える。そのことに注意しながら、少しずつ目の周囲に脱脂綿をつけてゆく。中心付近の雲を厚くするのは難しいが、何度も脱脂綿を重ねて、少しずつ台風らしく仕上げてゆくのだ。調子に乗って作業すると、台風が大きくなりすぎて、アジア全域を飲み込んでしまう。時々、衛星画像を見て、参考にしながら作ることが大切だ。このことで、台風を「よく観察」する、いや、せざるを得ない。



台風周縁部の薄い雲の表現も難しい。これは、薄く塗った糊を、「やや乾いた状態にして」脱脂綿を軽く押しつけている。この方法はうまくいき、あっという間に広まった。(つづく)